

武州みたけ

第六十二号

天然記念物『ニホンカモシカ』
写真提供：御岳ビジターセンター

第五十一回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 二百二十五句

選者 墓 目 良 雨

特 選

直角に曲がる参道鎌いたち 日の出町 渡邊敏雄
 上下から蛸を聞くだんごどう 練馬区 川村能正
 秋霖の山家に大きな航空便 立川市 堀江孝晴

秀 逸

老鶯の声澄み渡る神の山 豊島区 遠藤風琴
 神楽殿禰宜の衣擦れ淑氣満つ 新座市 長谷川 栄
 山泊まり長押の蜘蛛を祖霊とも 川崎市 濱田ふゆ
 霧込めの溪にきぶしの花鎖 青梅市 津布久信雄

佳 作

雨あがりレンゲシウマに光る露 杉並区 吉井淳子
 花の舞うひとひらごとに吾子笑う あきる野市 岩谷良敬
 むささびやりす訪ふ山の診療所 青梅市 山中美枝子
 石段のふちをいろどる花のくず 荒川区 田村慎吾
 奥の院朱色さやかに冬麗 宮城県郡 我妻 遼

選者 吟 魚は氷に上り天狼傾ぎ見る

第五十二回 奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
 四季を通じ「御岳山を題材」とした
 二、受付は指定用紙にて投句箱へ 俳句を募集しております。
 （郵送等直接の受付は致しません） 大勢の方の投句をお待ち申し上げて
 三、締切り 令和七年一月十五日
 四、発表 令和七年三月中旬

奉 納 俳 句 選 評

直角に曲がる参道鎌いたち

渡 邊 敏 雄

突風が吹いたあと皮膚に切目が入ることがある。この現象を昔の人は鎌^{かみ}に切られたと信じてきた。鋭利な鎌を持った^{かみ}に襲われたと感じたのである。御嶽神社へ進む参道は曲がりくねっている。気が付いたらどこかに出血の跡があった。角を曲がり付いてきたどこかで鎌に襲われたと思ったことが一句になった。直角に曲がる参道が山中の神社を示している。

上下から蛸を聞くだんごどう

川 村 能 正

だんごどうはケープルカー沿いにある登山道の中腹にある団子堂のこと。お地蔵様の膝元に団子をお供えたことから付いた名称だ。この団子堂を起点に上下からも蛸が鳴いている光景が描かれている。作者にとっては全山が蛸の声で包まれていると感じたことだろう。

秋霖の山家に大きな航空便

堀 江 孝 晴

秋の長雨の続くある日に山家（御師の家であろうか）に大きな航空便が届いたことを描いた。人の往来の少ない季節だから目立ったのであろう。外国からの荷物はつい目立ってしまう。荷物の中身は知れずともこの山中が海外とつながっていることを示してくれる、まさに現代の世相を示している。

老鶯の声澄み渡る神の山

遠 藤 風 琴

夏の鶯（老鶯）になるにつれて鳴声は朗々としてくる。はつきりと自己主張する声は木々の間を突き抜けて来る。神の山であればこそ澄みわたる音色を発するであろう。

神楽殿禰宜の衣擦れ淑氣満つ

長 谷 川 栄

年の初めに神楽殿に奉仕する禰宜の所作の発する衣擦れの音までもが新年を寿いでいるように厳かに聞こえる。新年に聞く音はすべからず厳かにきこえるものだ。

山泊まり長押の蜘蛛を祖霊とも

濱 田 ふ ゆ

御師の家などに泊まった時の光景。長押に見かけた蜘蛛を眺めていると、この家に開闢以来住みついているように思えたというのが句の内容。お山の家にあるすべての物に靈氣が宿っているように見えるのは誰しもが体験するだろう。

霧込めの溪にきぶしの花鎖

津 布 久 信 雄

木五倍子^{キゴ}の花の特徴を生かした作品。枝先に簪を垂らしたように幾本もの鎖状の花を垂らす。霧に包まれた溪谷にきぶしの花鎖だけが浮かんで見えるよう幻想的な作品となった。

御嶽神社あれこれ

武蔵御嶽神社の「尚武」の気風

権禰宣 朝矢 嘉史

武蔵御嶽神社の由緒では、日本武尊が東国遠征の際に御嶽山の近くで邪神を撃退し、奈良時代には僧行基が御嶽山に蔵王権現を安置したと伝えられています。武勇に優れた日本武尊は、当社の奥宮の男具那社に祀られ、悪魔を退治するために怒りの形相をしている蔵王権現も、廣國押武金日命として本社

創術御嶽
又傳右京

創術表
天然理心流
一木刀 五本
一腰銃 七本
一鉄合口 三本
一振之事
一先之事
一急之事
一草位

天然理心流切紙（久保田英明氏 所蔵）

御祭神となっています。平安・鎌倉・室町時代、武士の信仰を集めた当社に、畠山重忠奉納と伝わる「赤系威鎧」（国宝）をはじめ多くの武具・馬具・武器が奉納され、御神宝として伝存していることは、昨年令和五年（二〇二三）に新たに刊行された『御神宝 武蔵御嶽神社宝物集』に詳しく示されている通りです。

創建から古代・中世まで、武蔵御嶽神社は「尚武」、すなわち武勇・武道を重んじる由緒や歴史を重ねてきました。その後の「尚武」の展開について、先学の成果に拠りつつ概観しましょう。

戦国時代、青梅地方の国人領主三田氏のもと、神主家が

御嶽山を治めていました。三田氏滅亡後、青梅地方は戦国大名北条氏の支配となりますが、神主家は勢力を保ちます。御嶽山の山上には戦国時代の城郭の遺構が残っており、「御岳城は、領主三田氏の庇護を受けながら独自の権力を確立していった武装集団の山城」とする説が出され、北条氏も、甲斐国の戦国大名武田氏の侵攻に備え、青梅地方の武士たちを御嶽山の警護に動員したと考えられています。御嶽山の神主は、武士と神職を兼ねて戦国大名に臣従する在地領主でした。

天正十八年（一五九〇）に関東に入国した徳川家康は、翌年に新領内の諸社寺に対し、改めて領地を寄進しました。大國魂神社・大宮氷川神社・鷲宮神社などの武蔵国の他の地方大社と同じく、武蔵御嶽神社にも家康本人の花押を記した判物が交付されて社領が寄進され、神主に祭祀への専念が指示されます。ただし「武運長久」の祈願も命じており「尚武」の気風が絶たれたわけではありません。元禄十三年（一七〇〇）の五代將軍徳川綱吉による社殿造営の際、綱吉は武蔵御嶽神社に具足二領を奉納しました。八代將軍徳川吉宗は、享保十二年（一七二七）に「赤系威鎧」（重忠鎧）を上覧し、さらに享保十九年（一七三四）には「赤系威鎧」とともに、「日本武尊御鎧」と称されていた「紫裾濃甲冑」（重要文化財）も上覧しています。

御嶽山の御師の出自について様々な伝承がありますが、江戸時代前期の史料に「神主家が軍役を勤めていた時の家来を御師にした」との記述があり、神主の軍事的な従者から御師へと転身した者がいたと考えられます。江戸時代後期、講中を廻って配札する御師は護身のために帯刀し、剣術を習得します。文化八年（一八一二）、七人の御嶽山御師が天然理心流宗家二代目の近藤三助に入門して以来、幕末まで五十名を超える御師たちが天然理心流を学びます。天然理心流は、新撰組の局長近藤勇や副長土方歳三が習得した剣術流派として有名で、近藤

勇は四代目の宗家です。また、慶応三年（一八六七）には開平三知流の額が武蔵御嶽神社に奉納されます。開平三知流は、甲源一刀流の門人だった青梅地方長淵村の三田左内が興した剣術流派です。奉納額には、「門弟」として六人、「当山剣道連」として十九人、「山内世話人」として五人の御嶽山御師の名が見えます。

明治末年前後、小説『大菩薩峠』の構想を練っていた中里介山はこの開平三知流の奉納額を見て、「三田左内相馬宗美」の名を主人公「机龍之助相馬宗芳」の創造に用い、御嶽山奉納剣術試合を着想したといわれています。『大菩薩峠』を機縁とし、武蔵御嶽神社では奉納剣道大会が行われています。本年令和六年（二〇二四）は、十月二十日に第七十八回大会が開催される予定です。

このように武蔵御嶽神社では現在に至るまで「尚武」の気風が受け継がれています。「尚武」は好戦性を意味しません。むしろ「尚武」は、日本と世界、そして講中・氏子・崇敬者をはじめ人びとの平和と繁栄を御嶽大神に祈ることと強く結びついています。本年四月からは当社宝物殿の企画展として、御嶽山ゆかりの甲冑をはじめとする武具・武器などを展示する予定です。ぜひ観覧いただき、武蔵御嶽神社の「尚武」の気風の一端にふれてもらいたいと思います。

【主要参考文献】

桜沢一昭「介山拾遺（二）」（『中里介山研究』創刊号、昭和四十八年）
『資料 青梅市の中世城館跡』（青梅市教育委員会、平成二年）
『特集 多摩の剣術』（『多摩のあゆみ』第八十六号、平成九年）
数馬広二「幕末、武州御嶽山における天然理心流についての一研究」（『中央大学保健体育研究所紀要』第一七号、平成十一年）



武蔵御嶽神社 奉納剣道大会



開平三知流奉納額再興碑（随神門横）

「お山の結婚式」

権禰宜 馬場 慶太郎

令和五年十月、武威御嶽神社にて結婚式を挙げさせていただきました。御嶽山では実に十五年ぶりとなる神職の結婚式で、式を御嶽神社で挙げたのち、披露宴は自宅の宿坊で行いました。

今回は、今日では少なくなった自宅で行う結婚式について紹介したいと思います。

近年では、結婚式の様相も多様化し、教会で牧師さまをお迎えしスーツやドレスに身を包んだ新郎新婦が、招いたご親戚や友人の前で賑々しく挙式する一般的なものから、神前ではなく人前であつたり、そもそも新郎新婦だけで行うものなど様々です。また多くの場合、式場の手配や披露宴の準備、衣装の着付けなどは、ホテルなどの式場に併設する結婚式を専門に扱うコーディネートなどにお頼みするのが一般的かと思っています。



御嶽山には、江戸時代より続く隣組制度が今日まで残っており、冠婚葬祭の際は五件から六件で構成された隣組どうしが集まり、結婚式や葬儀などの段取りを何から何ま



で取り仕切つて頂きます。

今回の結婚式に際しても、式当日はもちろんのこと、結納披露から案内状の発送、披露宴の準備から進行、食事に至るまで、組合の皆様やお付き合ひの方々に手配をして頂きました。一部和装の着付けなども、御嶽山内のお付き合ひの方にお手伝いをお願いしました。

媒酌人を、以前務めておりました板橋区は東新町、氷川神社の宮司様にご依頼し、結婚奉告祭は武威御嶽神社前宮司の須崎様に斎主をお願い致しました。

組合の皆様には式の前々日からお集まりを頂き、総出で披露宴会場である宿坊を清掃し、親戚や来賓の方々をお迎えする準備をします。今回の披露宴は総勢七十名ほどでしたが、宿坊と言っても一般的なホテルや式場とは違い、そこまで設備も大きくはありません。また、十五年ぶりということもあり、式の次第や会場準備など若干辿々しくもありましたが、何とか結婚式当日を迎える事が出来ました。お組合の皆様には大変なご苦勞を頂戴し、頭の下がる思いです。

当日は組合の代表を先頭に、媒酌人から新郎新婦、親戚を含んで隊列をなし、自宅の宿坊から御嶽神社まで徒歩で進みます。

神社での祭典を行ったのち、山上のお付き合ひの

方を含めたご来賓をお迎えし、披露宴をおこないました。許容人数の問題もあり、お互いの友人は招待できませんでした。が、久しぶりのお祝い事と言うこともあり大変賑々しく納める事が出来ました。

御嶽山のなかでも、人手不足や世間の流れにともなつて、式は神社で挙げ、披露宴は麓の会場を借りて行う、というような事も増えてきております。今回このように山内で行えた事は「家」として大変ありがたく、また後世に古いしきたりを残していくという観点からも、貴重な経験となりました。

結婚式は、単に新郎新婦の「人と人」のものである以上に「家と家」のつながりを強固にするものだと実感致しました。数は少なくなるかも知れませんが、古来のしきたりや文化を守り伝えてゆくことも神職のつとめのひとつだと思います。



拝殿に到着した様子

『見えぬけれども、いるんだよ』
— 御師が聞いた謎の遠吠え —

令和五年大口真神式年祭にあたりましては、皆さまのご協力・ご賛助を賜り、盛大に執り行えましたこと、あらためて御礼申し上げます。

巡り巡って当社へ辿り着いた頭骨にはじまる神奈川県清川村のオオカミ頭骨”再発見”、『オオカミの護符』上映と鼎談、野生動物画家・岡田宗徳氏による二ホンオオカミ復元画の展示、写真展に作品展。この波は当社の領域のみならず、つい先日、「ヤマイヌの一種とされる剥製は二ホンオオカミである可能性が高い」と中学生が学術論文を発表したニュースもあり、元来二ホンオオカミが持つ魅力と関心の高まりを感じる一年となりました。

当社の山頂、神社境内地でもとりわけ高い位置にある大口真神社。神話の時代、山域で難に遭われた日本武尊を助けたオオカミが大口真神さまとなり、この地を護る神として鎮まられています。二ホンオオカミへの関心が高まったこの機会に、一笑に付して忘れてしまふにはあまりに惜しい、当社の御師・下田利夫氏が山内で聞いたという「謎の遠吠え」のお話をここに記録します。

— その「遠吠え」についてお聞きします。
山内とはお聞きしましたが、いつ頃のお話なのでしょうか？

もう二十年前くらい前だと思っただけ
ど。すぐそこだよ。

— 聞こえた、のがですか？

そこだよ。向こうも気づいてない
で鳴いたのかな、感じからして。五メー
トルくらいしか離れてない。ワオーッ
という。はじめは普通だったんだけど
ね。それから違うのよ、ワオー…グウウ

— 犬ではなかったのでしょうか？

飼われてた犬じゃないね、あんな声
で…。声からすると大きさは柴犬くら
いだと思うけどね。

— オオカミの可能性はありますか？

野犬か、ヤマイヌか、オオカミか。
オオカミは集団生活だつていうけど、
一匹だったからね。一匹狼とも言うけ
ど、どうなんだろうね。

ただ混血のね、オオカミの血を引く
ヤマイヌつていうのはいるのかもしれ
ないね。純粋な二ホンオオカミはいな
いのかもしれない。そういう野犬を交
配して二ホンオオカミに近づける実験
をしたという話も聞いたけど。

— なるほど。ありがとうございます、
調べてみます！

でもね。俺はね、反省してるのよ。
人生はね、反省して物事が成り立つの
よ。頭に来てカッかして何の意味があ
るの。冷静さ、判断を失うのよ。反省
して、いかに直せるかと。読者に訴え
たいのはそういうこと。ね。

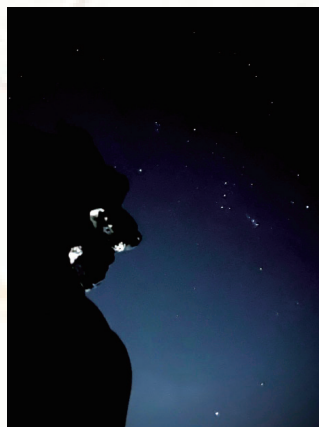
実はよ、その遠吠えは数日おきに聞
こえてよ。同じように二回、三回と追
いどばして。でも、四回目はなかった。
そこでようやく気がついたの。しまつ
た、録音しておけばよかった！つて。
いいお金になったかもしれないのに。
ねえ？

二ホンオオカミは明治三十八
(一九〇五)年に奈良で捕獲された個体
を最後に発見されていません。オオカミ、
ヤマイヌ、野犬の区分けについても諸説
あり、明確ではないようです。ただ、中
でもオオカミだけは古くから特別視され
ており、聖獣として、鹿や猪から作物を
守るものとして、狐憑きなどの憑き物祓
いの力を持つものとして、様々なかたち
で信仰されてきました。現在でも、草食
動物を狩り生態系をよみがえらせる動物
として期待されるなど、話題に事欠かな
い、ロマンあふれる動物です。

オオカミもカワウソも見えていないか
ら絶滅したつてことになつて。けど、
山にはまだ見たことのない生き物がい
るんだよ。これは間違いない。見てな
いからいないつてのは言い切れないと
思うよ、俺は。

下田御師のロマンあふれる話は脱線し
ながらも続いたのであった。

(権欄直 服部朋也)



徒然ばなし

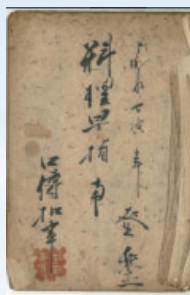
『何足の草鞋?!』

権瀬宜 久保田 享



私がこの山に帰ってきて早二十年が経ちました。神主として神社に奉仕し、家に帰りお客様をもてなし、観光について会議に参加し、消防団員として人命救助を行う。そんな私は「何足の草鞋」を履いています。今回は私の家業である、宿坊についてお話したいと思います。

私の家も例にもれず、代々宿坊を営んでおり、私の代で十七代目になります。江戸時代くらいからこの山に定住し、御師になったと思われまふ。その頃から講中廻りを行い、また講社の宿泊を斡旋し、生活を守っておりました。春の代参には当時から多くの参拝者が訪れ賑わいを見せていました。実はその当時の料理レシピブックが我が家には残されており、その一部をご紹介したいと思います。



嘉永七年(1854) 登正(登雅楽頭) 料理早指南 (口傳扣事)

一、白玉たまごは、玉子をうち割て、黄身をすくひ取て、白身ばかりへ、くず(くず粉)を少入、よくすりませ、やきなべに胡麻の油引いて、其上へ丸くおとし、金べらにて打かへし、強く焼き目を入、塚のようにすべし
一、かすてら玉子は、たまごを割つて、山芋をよくおろし、上々のうどん粉と大白砂糖少し入、よくすりませ、かすてらなべにてやき上るなり、火かげん第一なり(上々は上等のという意味力)

とこの様に卵の料理の種類だけでも八種類、その他にも、蛤や豆腐、醤油や砂糖、酒をふんだんに使用し料理の指南が書かれていた事に驚かされました。私の乏しい想像力ではもっと貧相で質素な山菜や野菜ばかりの食事を想像していました。この時代にどうやって連んだのか? また保存方法など数多くの疑問が残ります。調べることは出来るのですが、それはまた別の機会にしたいと思います。

では現在はどういうと... 私自身他の宿坊での会食等があり、食事を頂くことがあるのですが、料理がとても探求され、地元の食材や旬の物がふんだんに使われ、とても美味しい品々が並びます。それはどこの宿坊も同じで、御岳山の人たちの「おもてなしをする姿勢」が江戸時代より脈々と受け継がれている事を感じます。

最後に家族へこの指南書を再現してお客様にお出ししたら、大喜びするんじゃないの? との問いかけには家族から冷やかな視線が注がれるだけでした。



御岳山売店紀行

千本屋



武蔵御嶽神社へと続く表参道の商店街にジビエ料理が食べれる売店がある。春の行楽シーズンに訪れたが大変な賑わいで、入り口の看板に誘われるかのように観光客が入っていく。店の中には大連れも何組かいてペット同伴に暖かい売店である。

新緑の御岳山、今回は売店「千本屋」に訪れることにした。女将の節子さんと娘さんとで営んでいる店内は多くの土産物と食事をするテーブルが並び、どこか懐かしい観光地の売店の装いで、ワクワクしてしまう。店の奥には有名人のサインや写真がたくさん飾られており、その人氣が覗える。

千本屋はここで水道屋を営んでいた須崎家に先代の須崎文吉さんが養子に入り、利律子夫人と昭和三十九年に売店を開いたことに始まる。店内には大きな鋸や巨木のテーブルなどがあり、山上の売店といった趣である。もともと奥多摩で木樵をしていた先代は御岳山の伐採に於いても生涯現役で勤め上げたそう、創業時に買ったという古いそろばんを持ちながら話す女将との会話はとても小気味好く、お二人の笑顔と感じの良さに常連が多いのも頷ける。

今回筆者が注文した名物の鹿肉のカレーライスは濃厚で、煮込まれた肉がとても美味しい。これは今の主人が以前猟師をしていて新鮮な鹿肉が手に入るのから始めたそうでジビエに抵抗がある人にも美味しく頂けるようにできている。また看板にもある石清水コーヒールは綾紘の滝近くの湧き水で淹れてくれる。カレーとコーヒールの絶妙な組み合わせに深い満足感を得ることができた。その他の蕎麦や甘味も魅力的で次回が楽しみに。登山の際にはこの魅力をぜひ体験していただきたい。



「千本屋」女将 須崎節子さん



御岳ビジターセンター

ムサくんだより

「展葉（てんよう）」

厳しい冬を乗り越え、植物や樹木たちは春を感じ、芽吹いた葉を展開していきます。展葉とは、草木が新芽から葉を出し、葉を大きく広げていくことを意味します。

今回は、春のおすすめの観察ポイントについてお話しします。

御岳山では、春と言えば新緑やヤマザクラ、カタクリなど、春の花が咲き始め、森の中が賑やかになる季節です。この時期は、特に植物や樹木の葉をよく観察すると新しい発見や驚きがあります。

植物にとって葉は、光合成をして栄養を作るために必要不可欠なものです。葉にも寿命があり定期的に葉を入れ替えるわけですが、芽吹きだしの葉は柔らかく弱いため、太陽の強い光から耐えるための工夫がされています。芽吹きだしの葉が赤色を帯びた葉やビロウド状の毛があるものは、太陽



イヌブナ 葉が出始めた様子

の工夫がされています。芽吹きだしの葉が赤色を帯びた葉やビロウド状の毛があるものは、太陽



イヌブナ ふわふわの葉の様子

例えば、イヌブナは硬い冬芽から柔らかな黄緑色のふわふわな葉へと変化していきます。その様子はまるで魔

法のようなです。木々や草花が展葉する過程を観察していると、美しさや魅力を再発見するだけでなく、生命の力強さを感じ取れます。皆さんもきつと、植物と日々向き合うことで、葉の形態美に「はつ」とする瞬間や出会いがあるはずです。

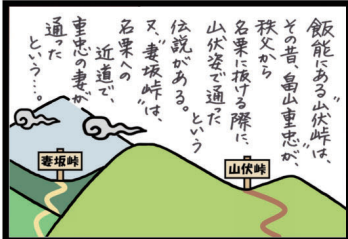
春の御岳山へ足を運んでみませんか。



リョウブの葉 赤い色を帯びた様子

みだけの重忠くん

作 たいやまジロー



<https://youtu.be/YQHHBayKAYg?si=NQe16Mo63xW-N-dY>

J R 御嶽駅から神社までの解説動画です



<https://youtu.be/-MfYePoqssA?si=XHIXaW750xCDMvTJ>

立春の前日に行われる「節分祭」の動画です



<https://youtu.be/kALQcud8Mk0?si=5g66yGrqg57Kne2i>

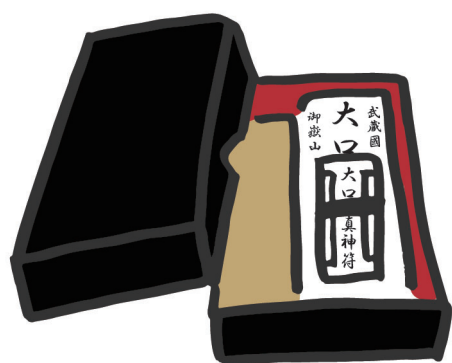
初午に行われる「稲荷社祭」の動画です



神社の杜（六十二）

『御師のアイテム（じゅう箱）』

片柳 茂生



イラスト：御岳ビジターセンター解説員

毎年十一月頃から翌年の三月にかけては、御師が講中にお札を届ける時期です。近くは東京埼玉の市町村、遠くは茨城県や静岡県の講中にまで出向く御師もいます。これを「講廻り」とか「講社廻り」と呼び、講中の家を一軒一軒回ってお札を配る、また講元や世話人のお宅にまとめて届けるというやり方もありますし、講中のお日待に合わせて伺い、祈祷も行うなど様々な廻り方があります。

この講廻りの際の格好は、着物に羽織袴姿、足元は雪駄あるいは下駄。

そして風呂敷に包まれた「じゅう箱」を抱えて廻ります。今でも昔ながらの着物姿で回るので、講中の人は一目で「今年も御岳山がやってきた」と判るようです。この講廻りについては御師によって、また講中によっても違うため、この時期集りがあると決まって話題になり、ついついお酒も進んでしまいます。

今回ここで取り上げたいのは、御師が持ち歩く「じゅう箱」についてです。この「じゅう箱」、いつ作ったかわからない昔からその家に有る物を大事に使っている御師もいれば、使うに堪えられない状態になってしまったか、あるいは時代のせいか鞆に変わってしまった御師も少なくありません。

「じゅう箱」のサイズは各家によって多少の違いはあるでしょうが、およそ長さ約一尺一寸、幅約八寸、高さ約三寸と言った所でしょうか。表は黒、内側は赤の漆で塗られています。講廻りの際この箱には数種類の札が入りますが、どの御師も必ず入れるのは通称お犬

様と呼ばれている狼の札です。一軒ごとに箱から札を取り出し、その札を蓋に移して差し出します。すると講の人は、その蓋に初穂を入れて返してくれるのです。

不思議なのはこの箱を「札箱」とか「お犬箱」とか言わずに「じゅう箱」と呼んでいる事です。この呼称の由来は「牛王宝印」を入れて持ち歩いたことからついたものだと思います。牛王宝印とは各地の社寺で出す災厄除けの護符で、熊野神社の八咫鳥のしるしが書かれているものは特に有名です。その「牛王宝印」なるものが御岳山では「お犬様」だったのではないのでしょうか。「牛王宝印」を入れる箱が「牛王箱」に詰り、そして「じゅう箱」と呼ぶようになったのではないかと考えられます。でも「お犬箱」より「じゅう箱」のほうがしっくりしますよね。

この御師のアイテム「じゅう箱」、使い勝手はよいのですが、困ったことに腕に抱えて持ち歩くため羽織の袖が擦り切れてしまうのが難点なんですよ。

あ と が き

このような時には人と人が誠実に向き合い、正直に話し合うことが大切であると思われ、「清明正直」という精神は、いまに生きる私たちの指針となるのではないのでしょうか。新たに形成される社会が、明るいものであるように願うばかりです。最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、御礼申し上げます。

令和六年 三月十五日発行

〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

FAX 〇四二八（七八）八五〇〇

〇四二八（七八）九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashimitate.jp/

武蔵御嶽神社

公式SNS

公式
ホームページ

HP



facebook



X (Twitter)



instagram